様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 ２２ 日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４７３０６５４

研究課題名（和文）成人教育における域内連携と国際ネットワークの構築：中央アジアと国際的連帯の検討

研究課題名（英文）International Cooperation and the Building of an International Network of Adult Education in Central Asia

研究代表者
河野　明日香（Kawano, Asuka）

名古屋大学・教育学研究科（研究院）・准教授

研究者番号：１０５３４０２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、中央アジアを事例とし、域内連携の現状とそれを取り巻く国際ネットワークの実態を検討し、域内連携とその基盤となる国際成人教育ネットワークの形成のメカニズムを解明することを目的とした。具体的には、中央アジアで活動を行う国際成人教育団体等の調査を実施した。
その結果、国際成人教育団体を通し、世界の成人教育の動向が中央アジア諸国に導入されているということが解明された。総括すると、国際成人教育団体は成人教育領域における世界と中央アジアの間に位置し、世界の動向を伝え、また中央アジア諸国を世界の国際会議や成人教育の場に引き出すことで、中央アジアの現状を世界へ伝えていく役割を有しているといえる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to discuss adult education and an international network for such in post-Soviet Central Asia. This research highlights the impacts of international organization on the current situation of adult education in Central Asian countries. For example, the Uzbekistan government, seeking to create a base for adult education, has organized an association that has become a leader in adult education. The organization supports the establishment of new organizations concerning adult education and fosters the growth of staff for these new organizations. In addition, the organization has established local offices in Uzbekistan, the Kyrgyz Republic and Tajikistan, and promotes the building of a local network in Central Asia. It could be said that adult education in Central Asia is affected by international trends, international organizations, international NGOs and international NPOs.

研究分野：社会教育学

キーワード：教育学　社会教育　国際成人教育　中央アジア

１．研究開始当初の背景

これまで、科学研究費補助金(特別研究員奨励費)「中央アジアにおける社会開発と地域コミュニティ－コミュニティ観と域内教育協力の検討」等の研究助成をもとに、ソ連解体後の中央アジア諸国における地域社会教育や成人教育についての研究を進めてきた。

90 年代初頭に相次いで独立を果たした旧ソ連･中央アジア諸国（カザフスタン、ウズベキスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン）では、現在多岐にわたる教育改革が実施されている。成人教育に対する改革もその例外ではなく、2003 年にウズベキスタンの首都タシュケントにおいて、中央アジアの生涯学習に関する初の地域会議が開催されている。同会議では、“Tashkent Call to Action”という提言が中央アジア各国のみならず、ヨーロッパやアジア、CIS 諸国の代表によって採択され、中央アジアの成人教育や生涯学習政策の課題、方針が提示されている。

このような中央アジアの動向に対し、これまでの研究では中央アジアはもちろんのこと、ロシアを含む旧ソ連圏における成人教育の動向やその実態に迫る研究はほとんど見られなかった。しかし、中央アジア諸国の連携や国際機関、国際援助団体等の対中央アジア成人教育支援が顕著である現在において、また、中央アジア諸国をはじめ、ユネスコ国際成人教育会議への参加国が劇的に増加し、成人教育における国際的紐帯が強く求められる現在、中央アジア地域における成人教育の実態と動向、課題のさらなる検討が必要である。

上記の研究課題に取り組む中で、中央アジア地域における成人教育の域内連携の構築においてユネスコ国際成人教育会議等の成人教育の国際的連帯の果たす役割が大きいことが確認され、それとともに国際機関や国際成人教育協議会(ICAE)、アジア･南太平洋成人教育協会(ASPBAE)等の国際成人教育ネットワークが世界の成人教育を支えており、成人教育の域内連携について考える上で、一定地域内における連携と全世界的な連帯との関連性について考察することが不可欠であると認識するに至った。特に、ソ連期の成人教育という歴史的背景を持ち、そのシステムを継承しつつも、独立国家としての成人教育制度や法令が未だ未整備である中央アジア諸国のような開発途上国では、成人教育制度自体の構築のモデルとなるような国際的な交流や連携は不可欠である。

２．研究の目的

そこで、これまでの研究を発展させるという観点から、本研究では、中央アジアを事例とし、域内連携の現状とそれを取り巻く国際ネットワークの実態を検討することで、域内連携とその基盤となる国際成人教育ネットワークの形成のメカニズムを新たな視点から解明することを目的とした。特に、「域内連携」と「国際ネットワーク」の連動という視点を導入し、地域内での連携と国際的連帯が世界の成人教育の発展を促進するという仮説のもと、新たな理論とシステムの構築を試みた。

３．研究の方法

研究方法には文献分析と併せ、聞取り等の定性調査と成人教育機関での活動の参与観察等の手法を採用した。調査は、a)横断的方法（統計･資料による現況把握、中央アジアの成人教育政策担当省庁における聞取り調査)、b)横断的方法（国際成人教育ネットワークの資料分析および関連組織に対する聞取り調査)､c)縦断的方法(調査対象 3 カ国(ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス)の成人教育機関への聞取り調査、参与観察）の 3 段階に大別して実施した。

具体的には、国際成人教育協議会（ICAE）やアジア･南太平洋成人教育協会(ASPBAE)等の活動に密接に関わっている成人教育の実践家、中央アジアの地域学習センター(Community Learning Center, CLC)スタッフ、中央アジア 3 か国（ウズベキスタン、キルギス、タジキスタン）で活動を展開するドイツの成人教育団体 DVV（以下、DVV）スタッフと連携 NPO、中央アジアの社会教育学領域の研究者、中央アジア現地 NPO スタッフ、関連省庁職員等に聞き取り調査を実施した。

また、関連の資料を収集するとともに、活動の参与観察も実施した。これらの調査結果に基づき、最終的に 3 か国の現況の検討、域内連携分析、国際ネットワーク分析を試みた。

４．研究成果

以下では、本研究で得られた成果について、これまでの現地調査の分析を中心に総括する。

東西冷戦の終結やグローバリゼーションの進展など、日々変貌を続ける世界では、基礎教育の普及・拡充のみならず、個々の全生涯にわたる生涯教育、生涯学習の重要性や緊急性がより一層重要性を増している。第１回ユネスコ国際成人教育会議（以下、CONFINTEA）が 1949 年にデンマークのエルシノアで開催され、1965 年には P.ラングランがユネスコ成人教育委員会で「生涯教育」を提唱して以降、世界各国では政府レベルまた民間レベルで、成人教育の発展を目指した取組みが展開されている。

このように、それぞれの国独自の成人教育の構築あるいは発展が目標とされている一方で、国家と国家をつなぎ、世界全体で成人教育の現状や課題を検討し、世界規模でその発展を目指す試みも続けられている。例えば、それはこれまで 6 回の会議が開催されている CONFINTEA や国際成人教育協議会（ICAE）などの活動に顕著である。世界の成人教育は、

各々の国独自の伝統や歴史、宗教、文化に根差した振興が図られていると同時に、国際的なスタンダードに基づく成人教育の底上げが目指されているという二面性を有する、といった様相を呈しているといえる。

このような世界的動向に対し、ソ連解体後の中央アジアにおける成人教育は未だ未整備の部分が多く、関連の制度や法律、専門職の養成、施設の設置、行政の学習支援体制等、多くの課題を抱えている。

本研究では、成人教育の世界的動向や国際ネットワークの構築を踏まえながら、それらが開発途上国の成人教育にどのような影響を与えているのかについて、旧ソ連・中央アジアと CONFINTEA の連関を把握しつつ、ウズベキスタンにおける DVV 等の活動を事例に挙げ、そのような取組みからどのような成人教育の活動が生まれているのか、成人教育のネットワークがいかに形成されるのかといった点やそこで生じている課題を明らかにすることを目指した。以下では、ウズベキスタンにおける調査結果を中心に、本研究の成果を概観する。

先述の DVV は中央アジア 3 か国で活動を行っており、ウズベキスタンの DVV 事務所は中央アジア全体を管轄する役割がある。ウズベキスタン国内では手工芸などの職業技術支援と同時に、国全体の成人教育の発展に寄与する成人教育協会の基盤づくりや発展に対しても支援を行っている。支援活動は現地の NGO・NPO や関連団体との協働によって実施され、活動を展開することで国内の成人教育団体同士の連携が促進されるような仕組みが出来上がっている。また、CONFINTEA VI の際に提出されたタジキスタンのナショナル・レポートの作成には、DVV も深く関わっている等、国の成人教育政策への関与も著しい。DVV の活動はウズベキスタン事務所を中核としながら 3 カ国の活動状況や成果が把握できるようになっており、さらに 3 カ国の交流や情報交換ができるようにもなっている。このような仕組みから、中央アジア地域の域内連携を進めていく一要因となっていることが明らかとなった。

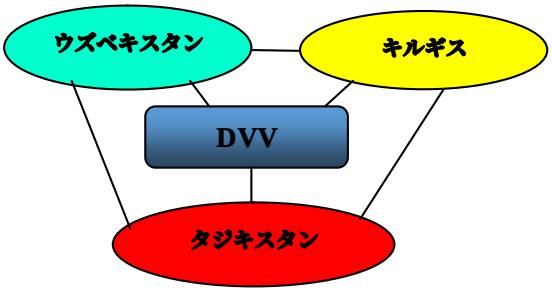

図１　DVV を基軸とした中央アジア域内連携図

DVV が近年取り組んでいる活動の一つが、ウズベキスタン成人教育協会の育成事業である。正式には、ウズベキスタン成人・青年の調和的発展協会という名称の団体で、現在のウズベキスタンで唯一の成人教育関連団体とされている。この団体に支援を行い、また連携する理由は、ウズベキスタンの成人教育の整備を行い、発展させていくためには、それを牽引するための現地の人々による成人教育団体が必要である、との考えからである。具体的には、ウズベキスタン成人教育協会のキャパシティ・ビルディングを行い、成人教育関連のさまざまな NGO や団体にアドバイスや必要であれば指導を行い、現地の人々自らがイニシアティブを持ち、成人教育を支えていく団体の育成や、そのスタッフの養成が目指されていた。

例えば、定期的に協会やその他成人教育団体スタッフの研修、ウズベキスタン国内外から講師や専門家を招いてのラウンドテーブルが企画、開催され、スタッフの力量形成が行われていた。さらに、ウズベキスタン国内の成人教育団体スタッフを諸外国で開催される国際会議やセミナー、国際ラウンドテーブルに派遣する事業も定期的に行われていた。これは定期的に開催される DVV の総会にウズベキスタンの現地スタッフを派遣し、成人教育や DVV の支援活動の最新動向を学ぶ機会を確保している事例であると指摘できる。

また、先述の成人教育団体の長がタイのバンコクで 2012 年に開催された、”Lifelong Learning for All through Community Learning Centers (CLCs)” という会議に参加し、ウズベキスタンの成人教育団体の特徴やこれまでの経緯、政府のプログラム等についての発表を行った経験がウズベキスタン国内でも紹介されていた。

この会議では、ウズベキスタンの成人教育の現状の発信だけでなく、他国の事例をウズベキスタンに持ちかえって検討するということも行われた。DVV のニューズレターには、この会議に参加した協会代表のレポートが掲載されており、そこではパキスタンの農村部の女性の学習事例や、タイの「竹の学校」という農業技術や実践的な知識を学ぶ学校の事例が紹介されている。会議のテーマにあるように、各国の CLC の事例が示されているが、ウズベキスタンの CLC にも触れられており、CLC が設立された 1999 年以降、ユネスコとの連携により 10 の CLC と 1 つの共和国立の学習センターが設立されたことや、タシュケントで多数の NGO がインターネットを介した学習を人々に提供している事例が挙げられている。

CLC については、ウズベキスタンの隣国のカザフスタンでも調査を行ったが、CLC スタッフへの聞き取り調査から、①ユネスコの世界的イニシアティブにより、カザフスタンでも CLC 事業が開始されているが、②カザフスタン政府の CLC への注目は低く、CLC 事業を推進していくうえで十分な予算が確保でき

ておらず、なかなか思うようにCLCの発展がなされていない、といった点が明らかになった。

既述のような国際会議への派遣事業は、中央諸国の成人教育団体の国際化を促進し、国際ネットワーク構築につながると考えられる。諸外国における成人教育の現状を知り、先駆的な事例を把握することで世界の成人教育の最新動向を知り、また多くの成人教育関係者と交流することで、国際ネットワークの創造が行われていることが示唆できる。

国際支援団体がいくら個々の成人教育団体の取組みを資金面や技術面、人材面でサポートしても、政府や地方行政以外に、国の成人教育を支えていく非政府かつ非営利の団体の持続、発展が必要である。この点で、DVVの派遣事業はスタッフ個々の力量形成や国際化とともに、中央アジアにおける成人教育の国際ネットワークの構築を促しているといえる。

ウズベキスタン国内では、DVVが現地パートナーと連携し重点的に取り組んでいるのが口伝えに残されてきた口承史の保存と継承のための活動である。ウズベキスタン国内で口承史の知識を持つ人物やそれを支援する団体と組み、その口承史をビデオ等に記録し、後世に伝えていくと同時に、口承史を伝えることができる人材の養成にも取り組んでいる。このような取組みは、ウズベキスタン以外の様々な国々でDVVによって進められている。換言すれば、DVVを通し世界における記憶や口承史に関わる支援活動がウズベキスタンに持ちこまれ、形を変えながらウズベキスタン国内で展開されているといえる。

DVVのみならず、前出のICAEやASPBAEもCONFINTEAやICAE総会等のような国際的な場、独自のネットワークを用い、国際成人教育のネットワークに中央アジア諸国を引き込むための働きかけを行っている。

このような世界的動向のインパクトは、成人教育の意義や整備、実践の先駆的な事例を中央アジア諸国にもたらすことが指摘できる。その一方で、いくつかの課題も解明された。例えば、前述のように、人々の記憶や思想、信条や内面に関わる国際支援団体の取組みは、いかなるインパクトを現地の人々に与えるのであろうか。国際的スタンダードに則った支援は、現地の古くからの伝統や歴史、文化を如実に表わすものにいかにコミットできるだろうか。テクニカルな部分のみならず、人々の愛郷心を呼び起こす文化や宗教など、人間の心や内面に立ち入るような支援はいかに行うことができるのか、あるいは支援を行うべきではないのか。

ここで重要であるのは、DVVだけでなく、現地のパートナー機関がともに支援活動を実施している点である。このような現地の伝統や歴史、風土に通じた人々との連携は、成人教育の国際的スタンダードという「外圧」からその地域のオリジナリティを守ることが可能となる一つの手法であるように思われる。DVVの活動は、国際的スタンダードを有しながらも、現地機関とのパートナーシップにより、当該国の地域性も担保されているという、国際支援における重要な点を踏まえた支援とも考えられる。

CONFINTEAの提言や、ICAE、DVVの国際ネットワークの取組みは世界的に展開されており、成人教育や生涯学習の実践、蓄積が乏しく、成人教育とは何かといったことが人々の間に確立していない中央アジアも支援やネットワーク拡大の対象とみなされるようになっている。こういった、新たに成人教育を構築しつつある国や地域では、その地のオリジナリティがいかに確保できているのかについて、注意深く検討する必要があろう。

DVVの活動を通しては、CONFINTEAの成果や世界の成人教育の最新動向が派遣事業やDVVの中央アジア諸国での活動を通じ、中央アジアに導入されているといえる。

総括すると、DVVのような国際支援団体は成人教育領域における世界と中央アジアの間に位置し、世界の動向を中央アジアに伝え、また中央アジア側を世界の国際会議や成人教育の場に引き出すことで、中央アジアの現状を世界へ伝えていく役割を有しているといえる。それは、DVVが作成する刊行物に中央アジアでのプロジェクトのついての論考が掲載されている事例からも明らかである。人や刊行物などの媒体を通し、中央アジアと世界が触れあう機会が創造され、それが世界と中央アジアを取り結ぶ国際ネットワークへと発展しつつある。

本研究で対象とした中央アジア地域の成人教育や生涯学習は未だ萌芽の段階にあるが、当該地域で古来より育まれてきたモスクにおける伝統的な教育やマハッラと呼ばれる地域共同体での教育は、今も同地域の成人教育や地域社会教育の根幹である。今後は、このような中央アジアに古くから存在する地域社会での成人、子どもを対象とした教育に対する国際的な働きかけをどう捉えるのかも重要な課題といえる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① 河野明日香「独立後のウズベキスタンにおける中等教育改革の動向と特質」日本教育制度学会『教育制度学研究』第21号、2014年、pp.262-267。

② 河野明日香「ウズベキスタンの社会教育施設」『月刊社会教育』、No.707、2014年9月、pp.44-45。

③ 河野明日香「ウズベキスタンにおける社会教育と社会福祉」『コミュニティ・ガバナンスと社会教育福祉―欧米とアジアの比較研究 第3集』科研基盤（A）「コミュ

ニティ・ガバナンスと社会教育福祉システムの構築に関する欧米とアジアの比較研究」（研究代表：松田武雄）、2014 年 3 月、pp.28-32。

④ 河野明日香「ウズベキスタンにおける成人教育と国際支援―DVV International の実践とネットワークの事例を通して―」単著、名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)第 60 巻第 1 号、2013 年 9 月、pp.39-48。

⑤ 河野明日香「旧ソ連圏における成人教育と社会福祉―タジキスタンにおける地域保健活動に着目して―」『コミュニティ・ガバナンスと社会教育福祉―欧米とアジアの比較研究 第 2 集』科研基盤（A）「コミュニティ・ガバナンスと社会教育福祉システムの構築に関する欧米とアジアの比較研究」（研究代表：松田武雄）、2013 年 9 月、pp.105-116。

〔学会発表〕（計 3 件）

① Asuka Kawano, “Social Pedagogy in Uzbekistan-Focusing on Social Education and Social Welfare-”, International Conference “PEDAGOGICAL CO-OPERATION IN THE SYSTEM OF CONTINUOUS EDUCATION” ウズベキスタン共和国タシュケント国立教育大学主催国際会議、タシュケント国立教育大学、2014 年 11 月 12 日（招待講演）。

② Asuka Kawano, “Social Education and Social Welfare in Uzbekistan”, International Conference “Social Pedagogy in Europe, Asia and The US.”, Mainz, Germany, Johannes Gutenberg-Universität Mainz, November, 27, 2013.

③ 河野明日香「成人教育の国際ネットワークと域内連携の検討―中央アジア諸国における国際教育協力の事例から―」日本教育学会第 72 回大会、一橋大学、2013 年 8 月 30 日。

〔図書〕（計 3 件）

① Asuka Kawano, *Mahalla and its Educational Role: Nation-Building and Community Education in Uzbekistan*, Kyushu University Press, March 2015, 194.

② 河野明日香「第 7 章 ウズベキスタンにおける社会教育と社会福祉」松田武雄編著『社会教育福祉の諸相と課題―欧米とアジアの比較研究―』大学教育出版、2015 年 3 月、pp.117-132。

③ 河野明日香「国際成人教育と開発途上国の生涯学習」松田武雄編『現代社会と社会教育・生涯学習』九州大学出版会、2013 年 3 月、203-226 頁。

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
河野　明日香（KAWANO, Asuka）
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・准教授
研究者番号：10534026

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：